

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

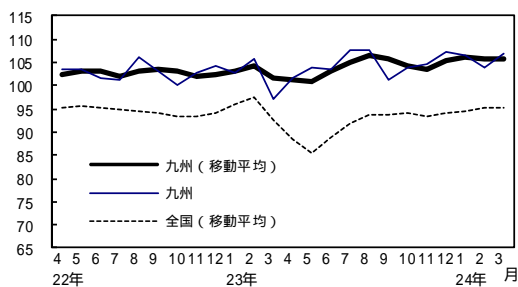
	前回(平成24年2月)	今回(平成24年5月)	
景況判断	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

電子部品・デバイス、自動車生産が好調なことから、自動車用のモス型計数回路を中心に増加した。輸送機械は、新車の生産や人気機種を増産に伴い増加した。食料品・たばこは、冷凍調理食品などを中心に増加した。一般機械は、半導体製造装置の生産が低迷しているため減少した。化学は、市況の悪化からアジア向け樹脂素材の減産が続いているため減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	15.6	15.8	18.4	16.9	6.6
輸送機械	15.4	7.3	0.7	0.5	20.9
食料品・たばこ	10.6	5.1	0.5	0.2	1.9
一般機械	10.6	2.7	7.5	5.1	4.2
化学	8.2	0.8	6.0	3.3	15.1
鉱工業	100.0	0.3	0.3	0.4	6.5

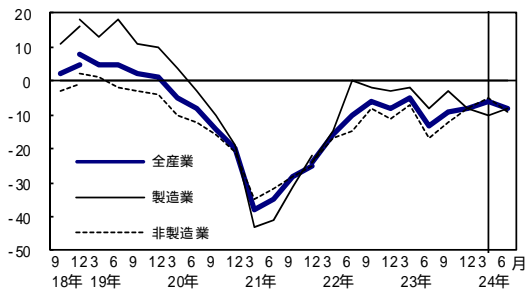
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。

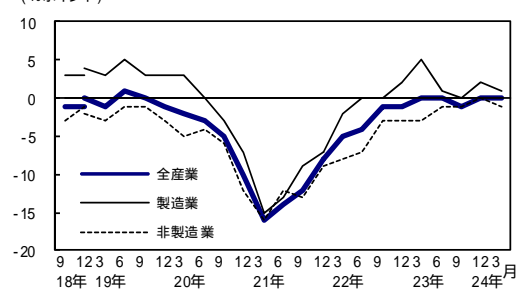
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



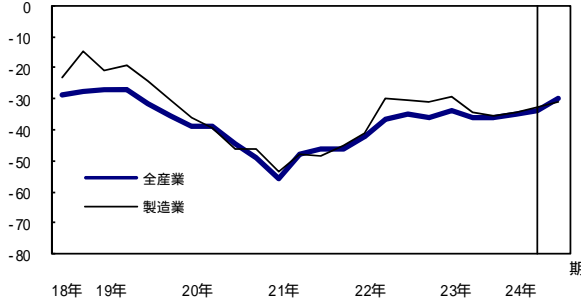
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「商品の動きは低調であり、売上も厳しい状況である。景気が上下しているとは思わない(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

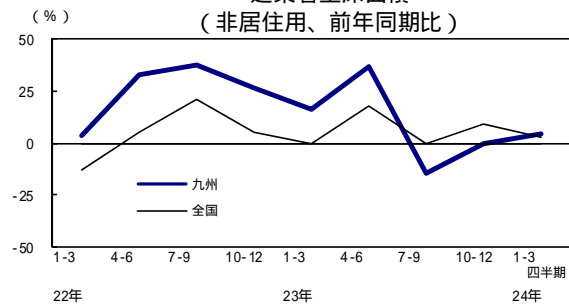
(3) 23年度の設備投資は、前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度計画
全産業	19.3 (9.1)	2.7
製造業	14.6 (7.4)	3.4
非製造業	21.4 (10.0)	2.3

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。
2.リース会計対応ベース。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

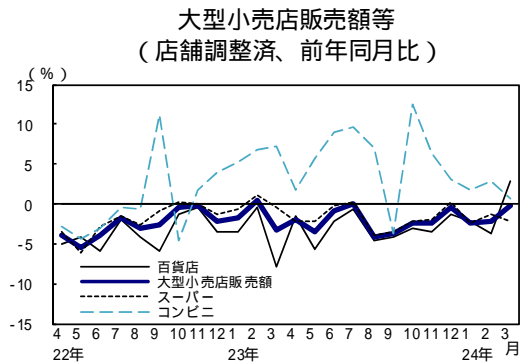
大型小売店販売額は、前年同期比で1.6%減、前期比で1.0%減となった。

百貨店は、1月は、婦人服や飲食料品の動きが鈍かったこと等から、前年比低下幅が拡大した。2月は、気温低下の影響で来客数が減少し、主力の婦人服が低調だったこと等から、前年比低下幅が拡大した。3月は、前年の東日本大震災の影響による反動増や高額品の一部に動きがみられたこと等から、前年を上回った。

スーパーは、飲食料品の動きが鈍かったこと等から、前年比低下幅が拡大した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「例年3月をピークに販売数は大きく落ち込むが、今年は特にスマートフォン人気が続くし、価格も下がったことから販売台数は何とか前年を上回っている(通信会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	2.1	2.5	1.6	1.6
百貨店(*1)	3.3	2.9	2.5	0.9
スーパー(*1)	1.5	2.4	1.2	1.9
大型小売店(*2)	1.7	0.9	0.8	0.6
(季節調整値)(*3)	(0.6)	(0.1)	(0.3)	(1.0)
乗用車(*4)	37.1	19.4	22.3	46.5
(季節調整値)(*4)	(12.3)	(29.8)	(5.9)	(17.9)

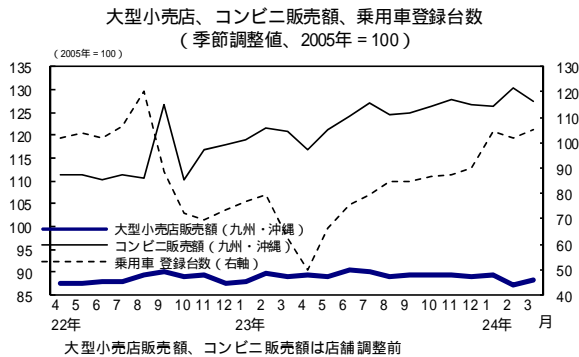
(備考) 1.九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期比(%)

2.九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期比(%)

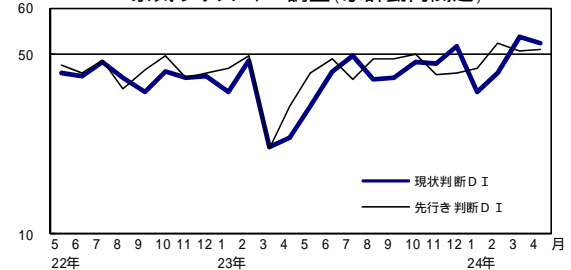
3.九州・沖縄地区、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

(上段：前年同期比、下段：前期比)



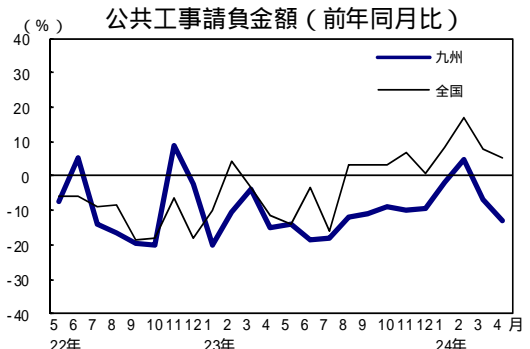
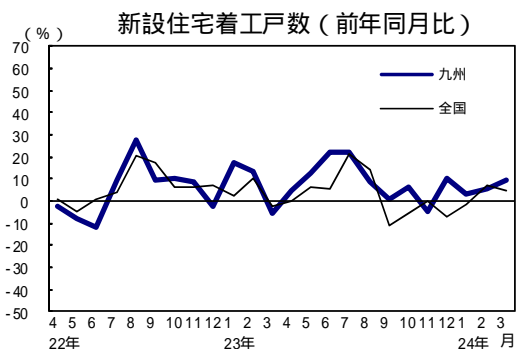
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

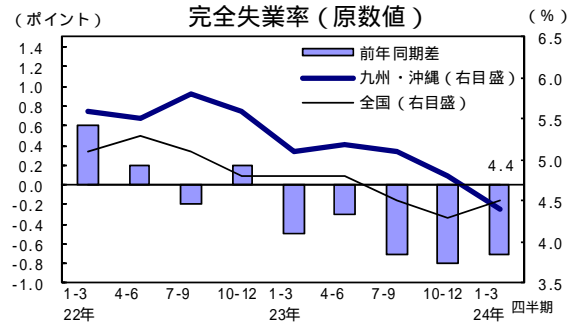
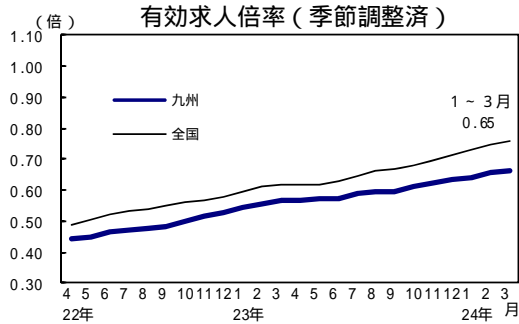
持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。
 有効求人倍率及び完全失業率等
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

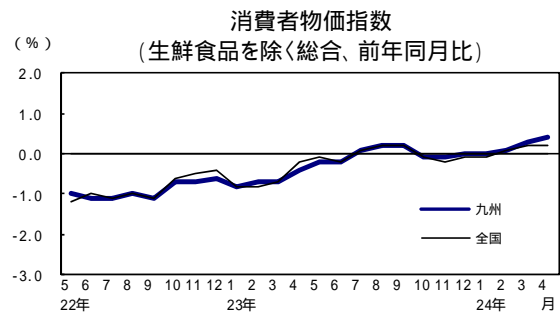
「九州新幹線が全線開業して1年を迎え、前年の東日本大震災の影響時と比較すると、落ち着きを取り戻している。アジアからの観光客が少しずつ増加傾向にあるが、景気の回復には至っていない (新聞社 [求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

- (3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	23年4月
倒産件数	195	220	209	213	66
(前年比)	7.1	0.9	10.6	14.5	24.5
負債総額	888	411	267	354	373
(前年比)	242.3	7.6	44.4	10.0	195.5



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 前年の東日本大震災による旅行の自粛の反動で、ゴールデンウィークは大幅に売上が伸びている。特に今年は長期休暇を取り易い日並びとなっており、ヨーロッパや直行便が就航したハワイ等が好調である (旅行代理店)

<先行き>

- 消費税増税と電力問題により、景気の先行きは悪くなる (繊維工業)

